

だ み よ く り に

No.762 令和7年6月1日発行



「みんなちがう子どもらしさで」

——教育の基本原則は、子どもと大人はちがうということを知ることです——

こう、マリア・モンテッソーリは言います。マリア・モンテッソーリは、イタリアで初めて医学博士となった女性で、「子どもには自分を育てようとする力、自己教育力が備わっていて、それを引き出すために大人が環境を用意してあげることが大事」と考え、「自立していて、有能で、責任感と思いやりがあり、生涯学び続ける姿勢をもった人間を育てる」ことを目的とするモンテッソーリ教育をつくった方です。

教育・保育に携わっていると、この言葉の通りであると実感すると同時に、こう思うことで子どもたちのことを俯瞰的に冷静に見て保育することができます。なので子どもたちの姿を見て、わたしはよく、尊敬の気持ちをもって「子どもらしい」と感じるようにしています。決して、子どもだからと下に見ているのではなく、「大人と子どもはちがう」からです。本当に子どもってすごいのです。

つい先日も子どもの力で、ディズニースーに連れて行ってもらいました。なんのことを言っているのか謎ですね。説明します。年少さんと園庭で遊んだ時のことです。「せんせい、これのって、でいずにーしーいこう」フープを車に見立てます。親御さんを真似ているようでそのお子さまはフープを持ち、運転します。少し歩き、「ついたよ」フープから降りようわたしに言います。「ここがかりぶね、おおきなぶねにのるんだよ、はい、のろう」本物の船があるように乗る動きをします。「ぐーんっておちるからね」ジャンプして、船がおちる様子を真似ます（実際、少しおちる演出がありますね）。「今度はね」と次のアトラクションへ……しばらくこの遊びが続いたことは言うまでもありません。

そしてホールでは、チャーハンを作ってくれました。おまごとの台所で、お玉でフライパンの中身を混ぜるときは音になるような混ぜ方をし、時々フライパンをゆらしします。もちろん味付けにこしょうをふりかけます。デザートはヨーグルトで、スプーン

を使って中身をかき出し、ジャムを添えてくれました。まるで中華料理屋さんかのような手早く作る見事な手つきでした。

このような遊びが子どもたちには大事です。遊びを脳科学から分析すると、自分の目で見たり耳で聞いたりして経験した→脳に伝えられた→記憶した→イメージしながら遊びたい、他者と遊びたい、遊びに没頭したい、といった意思が働く→運動器官である手や足に伝えられる、といったサイクルが行われています。子どものしぐさ1つが「感覚器官→大脳→運動器官」をサイクルとする生理学的事実によって成り立っています。たかが遊びに見えるかもしれませんが、されど遊びです。そして、子どもたちの遊びは変わっていきますので、一時期しか見られない貴重なものです。

さて、生まれてたったの1年、2年、3年、4年、5年の子どもたちがしかも集団でどのように過ごしているのか、気になりますね。そこでお子さまの園での様子、新学期が始まってまだ2か月の今の様子を、保護者の方に見ていただきたいという想いから、6月に行事を計画しました。乳児クラスは外遊び見学会、幼児クラスは参観です。わたしたちみくに学園の教育・保育は、子どもたちがきれいにそろうことが目的ではありません。「みんなちがって みんないい」のです。一人ひとりが安心して自己を発揮できる居場所であるように、そして「考える力、自己判断・行動できる力」を育てるように、と日々を積み重ねています。そのような教育・保育が伝わり、子どもたちの姿を温かい眼差しで見守っていただけましたら幸いです。

さて、冒頭の言葉に戻り、自分にも問いかけます。「自立、有能、責任感、思いやり、学び続ける」が備わっているだろうか。人のことを言う前に自分を見つめないといけませんね。つい自分に厳しくなってしまいますが、教育・保育には限りがないのです。自分次第。今月も、子どもたちのことを考えることで、学ばせてもらいました。子どもたちに感謝！ 今月もどうぞよろしくお願いします。